

## 1. 富山県環境保全基金の残高等

		金額 (単位:円)	備考
①	基金総額 (前年度末基金残高)	333,670,680	
	内訳	うち、国費相当額	166,835,340
		うち、地方負担相当額	166,835,340
		うち、負担附寄附金等	0
②	基金運用益	1,877,618	
③	その他収入	0	
④	負担附寄附金等	0	
⑤	返納額	0	
⑥	基金執行額 (処分額)	25,350,783	内訳は下表のとおり
⑦	基金残高	308,319,897	(=①+③+④-⑤-⑥)
	内訳	うち、国費相当額	154,159,948
		うち、地方負担相当額	154,159,949
		うち、負担附寄附金等	0

## 2. 保有割合

	次年度の基金類型	取崩型	金額 (単位:円)	備考
⑧	基金残高		308,319,897	
⑨	事業費 (次年度から終了年度までの見込額)		308,319,897	
⑩	保有割合		1.000	= (⑧/⑨)

保有割合の算定根拠  
 運用型：運用益見込額÷事業費 (次年度見込額)  
 取崩型：基金残高÷事業費 (次年度から終了年度までの見込額)

## 3. 事業一覧

番号	事業名	事業費			備考	達成度	事業費 (次年度)	事業費 (終了まで)
		合計	一般財源等	基金充当額				
1	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	17,110,534	1,877,618	15,232,916	個票1~11	43.2%	31,298,000	146,270,532
2	生活環境の保全	515,993	0	515,993	個票12~14	49%	2,955,600	98,536,460
3	自然環境の保全	9,601,874	0	9,601,874	個票16~18	37.7%	15,868,500	63,512,905
合計		27,228,401	1,877,618	25,350,783			50,122,100	308,319,897

## 4. 基金事業の目標に対する達成度

成果指標	①海岸漂着物発生源の認知度向上 ②世帯当たりのエネルギー消費量の削減 ③環境学習・啓発イベント等の参加者数累計の増 ④自然保護に取り組む活動者数の増 ⑤県民の環境保全意識の向上
成果実績	①海岸漂着物発生源の認知度 42.1% ②世帯当たりのエネルギー消費量削減率 29.5% ③イベント参加者数累計 4,478人 ④自然保護活動者数累計 3,582人 ⑤エコライフ実践に関するアンケートへの肯定的な回答割合 100% (令和元年度達成)
目標値	①海岸漂着物発生源の認知度 60% ②世帯当たりのエネルギー消費量削減率 28% ③イベント参加者数累計 25,000人 ④自然保護活動者数累計 3,400人 ⑤エコライフの実践に関するアンケートへの肯定的な回答割合 100%
達成度	78%

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	継続
事項名	エコライフ・イベント事業	開始年度	平成18年度
担当部署	富山県生活環境文化部環境政策課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

日常生活の中らごみや二酸化炭素等の排出を極力抑制する取組みを促進するため、エコライフ・イベントを実施し、循環型社会・低炭素社会の構築に向けての意識啓発を行う。

## 【目標】

- ①実施年度の目標：イベント参加者数 26,000人/年
- ②最終年度の目標：イベント参加者数（累計） 260,000人

## 2. 概要

エコライフスタイルへの転換について、各地域での取組みを推進するため、県内10市において消費者団体、婦人会、環境保健衛生協議会等と連携協力してエコライフ・イベントを開催する。（イベント実施に係る費用補助）

## 3. 根拠法令等

なし

## 4. 実施内容等

県内8市

4月～翌年3月

- ・エコキッズ環境教室
- ・フードドライブ
- ・環境フェア（イベント、環境事業紹介のパネル展示 等）
- ・「使いきり3015」啓発用マグネット作成
- ・環境関連のグッズの作成・ポスター展示・エコバックデザインの募集 等

参加人数計6,543人（新型コロナウイルス感染状況により、イベントの変更や中止が発生し参加人数が計画より減少）

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	継続
事項名	環境保全活動・環境教育に関する相談室事業	開始年度	平成20年度
担当部署	富山県生活環境文化部環境政策課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

今日の環境問題の多くは、県民の日常生活や事業者の事業活動に起因しており、その解決には、行政のみならず、県民、事業者が連携しながら、それぞれの立場で自主的かつ積極的に環境保全・環境教育に関する活動に取り組む必要がある。このため、県民や事業者、市町村等による環境保全・環境教育に関する活動を促進するため、県民等の自主的な活動への支援や相談への対応、情報提供を実施する。

## 【目標】

- ①実施年度の目標：「はじめてのエコライフ教室」参加幼児・保護者数 400人/年
- ②最終年度の目標：「はじめてのエコライフ教室」参加幼児・保護者数（累計） 4,000人

## 2. 概要

環境保全活動・環境教育の具体的な行動を促すため、環境保全相談室を設置し、相談への対応、情報提供、活動支援等を行う。

## 3. 根拠法令等

なし

## 4. 実施内容等

- ・はじめてのエコライフ教室の開催  
実施幼稚園・保育所 10か所、参加園児360名
- ・環境保全相談室の設置  
相談件数102件
- ・出前講座の開催  
利用件数 10件、利用者数525名
- ・こどもエコクラブの育成

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	継続
事項名	とやま環境フェア開催事業	開始年度	平成10年度
担当部署	生活環境文化部環境政策課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

<b>【目的】</b> 豊かな環境を守るとともに、よりよい環境を創造するため、本県の優れた取組事例を含めた、エコライフの実践事例を楽しみながら見聞・体感し、エコライフの実践拡大を目的とする。
<b>【目標】</b> ①実施年度の目標      とやま環境フェアへの参加人数    1万人 ②最終年度の目標      とやま環境フェアへの参加人数（累計）    10万人

## 2. 概要

10月の「3R推進月間」に、事業者や民間団体、行政機関等と連携し、県民へエコライフの普及・啓発を行うイベント「とやま環境フェア」を開催する。
--

## 3. 根拠法令等

なし
----

## 4. 実施内容等

○「とやま環境フェア2021」の開催（Web上での開催） (1)日程      令和3年10月1日～令和4年1月16日 (2)対象      一般県民等    約14,237人（ウェブサイト視聴者数） (3)場所      環境フェアウェブサイト上 (4)内容 ・団体・企業等による事業紹介（ブース出展） （工作や実験等の活動、模型や機器・製品などの展示等） ・楽しみながら閲覧できるコンテンツ （クイズ王林輝幸によるエコクイズ、住みます芸人ノビ山本による環境保全活動紹介等） ・見て学べるコンテンツ（気候変動×防災学習動画、環境問題をわかりやすく解説したエコ特集等） ・閲覧者が参加できるコンテンツ（エコ活動ツイートキャンペーン、エコ工作体験等）
--

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	継続
事項名	環境とやま県民会議運営事業	開始年度	平成19年度
担当部署	生活環境文化部環境政策課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

循環型社会や低炭素社会の構築を目指し、県民、事業者、行政等の協力のもと、県民総ぐるみでエコライフを推進するため、環境とやま県民会議を組織し、各事業を実施。

## 【目標】

- ①実施年度の目標 総会及びごみゼロ推進県民大会参加者数 300名  
 ②最終年度の目標 総会及びごみゼロ推進県民大会参加者数（累計） 3,000名

## 2. 概要

県民・事業者団体、報道機関、行政機関から構成される環境とやま県民会議を組織し、構成団体への情報提供や活動支援、エコライフの実践に功績があった者への表彰などを通して、県民総ぐるみでのエコライフの実践を推進する。

## 3. 根拠法令等

なし

## 4. 実施内容等

- 1 総会の開催（年1回）
  - (1)対象 構成団体、一般県民等 114名
  - (2)時期 6月16日
  - (3)内容 県民会議の活動方針や事業計画を構成団体に示すとともに県民等に周知を図った。
- 2 ごみゼロ推進県民大会の開催（年1回）（とやま環境フェア2021ウェブサイトにて動画掲載）
  - (1)対象 一般県民、構成団体等 231名（閲覧数）
  - (2)時期 令和3年10月25日～令和4年1月16日
  - (3)内容 3Rの推進や地球温暖化対策の推進で功績があり、表彰された功労者の功績紹介、ごみゼロ推進運動の実施状況の報告
- 3 環境とやま県民会議会長表彰の実施  
 エコライフの推進に功績があった者に対し会長表彰を行った。  
 （地球温暖化対策や3R等の活動に取り組む者を対象）
- 4 幹事会の開催（年2回）  
 活動方針や事業計画、会長表彰候補者等について検討を行った。
- 5 県民への普及啓発  
 総会やごみゼロ推進県民大会の実施結果、環境とやま県民会議会長表彰受賞者の功績をHPや広報誌に記載し、県民への普及啓発を図った。

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	継続
事項名	地球温暖化防止活動推進センター支援事業	開始年度	平成12年度
担当部署	生活環境文化部環境政策課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

県内における地球温暖化防止に関する広報・啓発、活動支援、相談助言等を実施する「富山県地球温暖化防止活動推進センター」の事業支援を行う。

## 【目標】

- ①実施年度の目標：富山県地球温暖化防止活動推進員の人数 90人  
 ②最終年度の目標：富山県地球温暖化防止活動推進員の人数 100人

## 2. 概要

（公財）とやま環境財団が「富山県地球温暖化防止活動推進センター」として、県内における地球温暖化防止に関する広報・啓発、活動支援、相談助言等の活動をするための事業支援を行う。

## 3. 根拠法令等

地球温暖化対策の推進に関する法律第38条  
 （地域地球温暖化防止活動推進センターの指定）

## 4. 実施内容等

## 1 地球温暖化防止活動推進員の活動支援

## （1）推進員を対象とした動画視聴の研修会（5回）

- ・第1回（座学） 日時 令和3年9月14日 参加者 42人
- ・第2回（座学） 日時 令和3年10月1日～10月31日 参加者 27人
- ・第3回（座学） 日時 令和3年11月12日 参加者 19人
- ・第4回（実地研修） 日時 令和3年11月28日 参加者 15人
- ・第5回（座学） 日時 令和4年2月22日～3月4日 参加者 23人（動画配信における視聴数90人）

## （2）地球温暖化に関する情報の提供、相談対応等や活動に役立つ普及啓発用のパンフレット配布

- ・ボランティア保険の加入 87人
- ・推進員謝金 70人

## 2 地球温暖化防止活動アドバイザーの設置

地球温暖化防止に向け、富山県地球温暖化防止活動推進センター内に「地球温暖化防止活動アドバイザー」2名を設置し、温室効果ガス排出削減に向け、企業・団体・推進員・県民からの照会・相談業務に対応するとともに、幅広く助言を行う体制を構築。

## 3 その他

## （1）（一社）地球温暖化防止全国ネット主催会議等への参加（7回）

## （2）環境関連イベントへの出展

富山県地球温暖化防止活動推進センターとして、環境関連イベントに展示ブースを設置し、パネルやパンフレット等を展示することにより、地球温暖化防止の普及啓発活動を実施。（とやま環境フェア）

## （3）富山県地球温暖化防止活動推進員の人数 87人（令和2年4月委嘱：任期2年）

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	継続
事項名	環境教育・環境保全活動協働事業	開始年度	平成30年度
担当部署	生活環境文化部環境政策課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

【目的】環境教育や環境保全活動に取り組む企業、民間団体等などの情報交換・ネットワーク化を図り、協働での取り組みを推進する。

- 【目標】①実施年度の目標：協働取組のマッチング件数 3件  
②10年後の目標：協働取組のマッチング件数（累計） 30件

## 2. 概要

富山県環境教育等行動計画（H29.3策定）において、環境保全活動の普及啓発及び人材・教材などに関する情報の収集・提供を総合的に行う中核拠点として位置づけられた（公財）とやま環境財団が実施する事業に補助する。

## 3. 根拠法令等

富山県環境教育等行動計画

## 4. 実施内容等

## (1) 協働ネットワークの構築・交流の促進・協働活動への支援

- ・ 協働取組みを検討している関係機関のマッチング1件
- ・ 協働活動の企画・調整（コーディネート）
- ・ 環境保全活動に取り組む団体等の情報収集、掘起こし
- ・ 見学受入可能な事業所等の情報収集、掘起こし
- ・ 講師等の派遣

## (2) 循環型社会・低炭素社会づくりに向けた環境教育の推進

- ・ 環境出前講座の実施  
①7月9日・9月30日・10月26日 43名、②7月16日 102名、③8月4日 68名、④10月22日 88名、  
⑤10月29日 101名、⑥11月10日 8名、⑦11月19日 20名、⑧1月21日 28名、2月21日 37名、2月25日 30名
- ・ エコドライブ体験会支援（10月23、24、12月4日）

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	継続
事項名	とやま環境未来チャレンジ事業	開始年度	平成30年度
担当部署	生活環境文化部環境政策課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

家庭における環境配慮行動の実践を促進するため、小学生を対象に地球温暖化や3R、食品ロスなどの環境問題に関する学習プログラムを実施する。

## 【目標】

- ①実施年度の目標 学習プログラム参加人数 3,000人  
 ②最終年度の目標 学習プログラム参加人数（累計） 2.7万人

## 2. 概要

## (1) とやま環境チャレンジ10

県内の10歳の児童（小学校4年生）が、地球温暖化や3R、食品ロス等の環境問題について学び、目標を決めて家族とともに家庭での対策を実践・自己評価するという一連の取り組みを通じて、環境に配慮したライフスタイルを啓発し、家庭における地球温暖化対策の推進を図るもの。

## (2) 環境授業の効果の普及啓発

これまでの取り組みの効果や優れた取り組みについてとりまとめ、環境イベント等の機会に県民へ普及啓発を行うもの。

## 3. 根拠法令等

なし

## 4. 実施内容等

## (1) とやま環境チャレンジ10

- ・小学校（70校、児童数3,543人）での環境授業等の実施（前期、後期の2回）
- ・地球温暖化防止普及啓発教材等の作成及び配布
  - ①とやま環境チャレンジ10の副読本10,000部を県内小学4年生の全児童に配布
  - ②その他とやま環境チャレンジ10用の教材等一式4,000部をチャレンジ10参加者に配布
- ・環境授業の講師である地球温暖化防止活動推進員の養成講座の実施（養成講座参加者36名、修了者32名）
- ・実施小学校へのアンケートの実施
- ・活動報告書の作成及びHP等での公表

## (2) 食品ロスゼロチャレンジ

- ・希望校へ授業に活用できる食品ロスに関する啓発資料を提供（県内小学校3校に計230部配布）



## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	新規
事項名	「環境白書」の発行	開始年度	令和3年度
担当部署	生活環境文化部環境政策課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

本県の環境の状況を紹介するとともに、環境の保全及び創造に向けた県の取組みについて取りまとめた「環境白書」を作成・発行し、県民の環境への理解と関心を高め、循環型社会・低炭素社会の構築に向けての意識啓発を行う。

## 【目標】

- ①実施年度の目標：環境保全に関する相談件数 500件/年  
 ②最終年度の目標：環境保全に関する相談件数（累計） 3,500人 ※R3～9年度（7年間）の件数を集計

## 2. 概要

県民の環境保全意識のさらなる向上を図るため、環境の状況や、環境の保全及び創造に向けた県の取組みについて取りまとめた「環境白書」を作成・発行する。（冊子の作成・印刷に係る費用）

## 3. 根拠法令等

富山県環境基本計画第5章3（3）（進捗状況等の公表）

## 4. 実施内容等

- 「環境白書」の作成・印刷  
 本県の環境の状況を紹介するとともに、環境の保全及び創造に向けた県の取組みについて取りまとめた「環境白書」を作成・印刷した。（200部及び電子版作成）
- 「環境白書」を活用した県民への普及啓発の実施  
 作成した「環境白書」を県ウェブサイト上で公表し広く県民に周知するとともに、各種出前講座等において活用・説明し、県民の環境保全意識の向上を図った。  
 （県民からの環境保全に関する相談件数：102件）

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	継続
事項名	環境教育拠点事業	開始年度	令和2年度
担当部署	富山県環境科学センター	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

持続可能な社会づくりに向け、富山県の環境問題（気候変動、プラスチックごみ、海岸漂着物、大気・水質など）について、展示や実験を通じて「見て・ふれて・学ぶ」ことにより、幅広い世代が環境について関心を持ち、自ら課題解決や実践活動に取り組む人材を育成する。

「環境楽習室 エコ・ラボとやま」は、県民が最新の環境情報を学べる場として設置したものであり、適宜展示等の内容を更新・充実しながら運営していく。

## 【目標】

- ①実施年度の目標 見学・体験者数 1,000人（令和2年度は500人）  
 ②最終年度の目標 見学・体験者数（累計） 7,500人

## 2. 概要

県環境科学センター内に令和2年10月にオープンした「環境楽習室 エコ・ラボとやま」について、来訪者がリピーターになって繰り返し活用してもらうためには、内容を定期的に更新するとともに、適宜新しい情報を提供する必要があることから、展示パネルの更新や実験資機材の追加購入など、展示の充実を図る。

## 3. 根拠法令等

環境教育等促進法（第19条第2項の関連拠点）  
 富山県環境教育等行動計画

## 4. 実施内容等

## 1 見学者の受入れ

## ①施設の概要

- ・展示コーナー：環境・公害・地球温暖化に関するパネルやサンプル等の展示
- ・実験・体験コーナー：センター職員が講師となり、来場者が環境に関する科学実験の体験
- ・情報・映像コーナー：環境に関するクイズや映像コンテンツ（デジタル四次元地球儀等）による学習

## ②対象

- ・子供から大人まで（令和3年度の見学・体験者数（実績）1,065人）

## ③公開時間

- ・平日9:00～16:30（地域住民も気軽に見学できるよう平日は年中開放）

## 2 展示内容の更新・拡充

「環境楽習室 エコ・ラボとやま」の展示物の更新、追加等を行った。

## ① 展示コーナー（環境・公害の歴史、マイクロプラスチック、気候変動の情報等）

- ・展示パネルの更新・追加作成（子供向けパネル等）、PRリーフレットの増刷

## ② 実験・体験コーナー（希望者に対し実施）

- ・「夏休み子ども科学研究室（サイエンスラボ）」の開催などにおいて、集中的な集客を図るための実験資機材、消耗品等の購入（木のストロー・デジタル温度計手作りキット、自転車発電装置、簡易水質調査キットなど）

## 3 費用

- ・需用費（展示パネルの作成費、実験資機材・消耗品購入費）

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	新規
事項名	エコな配達推進事業	開始年度	令和3年度
担当部署	生活環境文化部環境保全課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

運輸部門の温室効果ガス排出量を削減するため、県民・事業者・行政が連携協力して、宅配の再配達を減らす取組みを推進する。

## 【目標】

- ①実施年度の目標  
再配達削減に係る県民への周知 1,000人
- ②最終年度の目標  
再配達削減に係る県民への周知（累計） 7,000人（1,000人／年）

## 2. 概要

再配達の課題把握のための調査を行うとともに、その結果を踏まえて、ワーキンググループでの削減方策の検討・取りまとめや県民への周知啓発を行う。

## 3. 根拠法令等

なし

## 4. 実施内容等

- ①課題把握のための県民・事業者への調査
  - ・県民：宅配便利用状況、再配達の状況、自宅以外での受取りの状況、再配達に関する意識に関するアンケート調査（調査対象：1,000人、回答率：60.7%）
  - ・事業者：宅配事業者に取組み状況や課題等のヒアリング調査
- ②削減方策の検討・取りまとめ  
有識者、消費者団体等、宅配事業者、県からなるワーキンググループを開催（第1回WG（R3.8.31）、第2回WG（R4.3.10書面開催））し、具体的な進め方を検討
- ③削減方策の周知啓発  
再配達削減の意義や宅配事業者の受取りサービスについて、チラシを作成し各団体と連携した周知や、県ホームページでの周知を実施

## 令和3年度 事業報告書

事業名	循環型社会・低炭素社会づくりの推進	新規・継続区分	新規
事項名	企業参画型エシカル消費PR事業	開始年度	令和3年度
担当部署	生活環境文化部 県民生活課	終了年度	令和3年度

## 1. 目的及び目標（値）

<p><b>【目的】</b> 近年、消費者を取り巻く課題として、持続可能な消費行動が求められているなか、人や社会、環境に配慮する「エシカル消費」を県民に浸透させるため、エシカル消費に積極的に取り組む企業の協力を得て、県民により一層の普及啓発を図るもの。</p> <p><b>【目標】</b> 「エシカルフェア」への参加人数（来店客数） 延べ約94万5,000人（2週間開催）</p>
---

## 2. 概要

<p>令和3年10月～11月頃のうち2～3週間程度を「富山県エシカルフェア期間」と設定し、エシカル消費の普及啓発に関して県と包括連携協定を締結している企業（スーパーマーケット）の店舗内において「エシカルフェア」を開催する。（日常のお買い物を通して、県民に自然体で広く「エシカル消費」の普及啓発を図る。）</p>
---

## 3. 根拠法令等

なし
----

## 4. 実施内容等

<p>エシカル消費の普及啓発に積極的に取り組むスーパーマーケットの店舗内において、エシカル消費普及啓発イベント（とやまエシカルフェア）を開催した。（県内36店舗で実施）</p> <p>(1) 時期：令和3年10月16日（土）～10月31日（日）</p> <p>(2) 場所：県と包括連携協定を締結している企業（アルビス㈱）の店舗</p> <p>(3) 内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エシカルフェアPR用共通ロゴの作成</li> <li>・エシカル消費啓発用ポスター、ポップ、のぼり等の掲示</li> <li>・店内放送によるエシカル消費の啓発</li> <li>・エシカル消費に関するアンケートの実施</li> <li>・「まんまる」（北日本新聞社 2021.11月号）にて鼎談の企画・掲載</li> <li>・アルビスチラシへの掲載（ミニ講座の開催、アンケートの実施等）</li> </ul> <p>&lt;大島店、八尾店のみ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エシカル消費につながる商品を集めた特設コーナーの設置</li> <li>・「親子で学ぶエシカル消費ミニ講座」の開催</li> </ul>
--

令和3年度 事業報告書

事業名	生活環境の保全	新規・継続区分	新規
事項名	水環境保全団体活性化モデル事業	開始年度	令和3年度
担当部署	生活環境文化部環境保全課	終了年度	令和3年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

SDGs未来都市として清らかな水の「循環の創造」を実現するうえで、若い世代の水環境に対する理解や自主的な活動参加を促すため、ボランティア活動に積極的な大学生・高校生を対象に、活動に参加・体験してもらう機会を提供し、県民総ぐるみの取組みを推進する。

【目標】

- ①実施年度の目標 水環境保全活動体験会及び意見交換会への参加者数 40人/年
- ②最終年度の目標 水環境保全活動体験会及び意見交換会への参加者数（累計） 40人

2. 概要

大学生や高校生などの若者を対象として、地域団体が行う水環境保全活動に参加してもらう体験会をモデル的に開催し、若者が保全団体のサポーターとして継続的に活動へ参加する仕組みづくりを行う。

3. 根拠法令等

なし

4. 実施内容等

- 1 水環境保全活動体験会の開催  
 県のマッチングにより、若者が地域団体の活動（水辺の清掃活動）を体験した。
  - ① 実施時期 令和3年11月21日
  - ② 参加者 大学のボランティアサークル（高岡法科大学） 13名  
 団体（六渡寺自治会） 18名
- 2 水環境保全活動意見交換会の開催  
 体験会に参加した若者と団体との意見交換会を開催し、今後の水環境保全活動の活発化や若者の参加促進について意見交換を実施した。
  - ① 実施時期 令和3年11月21日
  - ② 参加者 大学のボランティアサークル（高岡法科大学） 13名  
 団体（六渡寺自治会） 18名

※新型コロナウイルス感染症対策のため、参加人数を絞って開催したため、進捗率が100%とならなかった。

## 令和3年度 事業報告書

事業名	生活環境の保全	新規・継続区分	新規
事項名	豊かな地下水保全事業費	開始年度	令和3年度
担当部署	生活環境文化部環境保全課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

本県の豊かで清らかな水環境を次世代に継承していくため、主体となって節水の実践や住民の保全意識の啓発など地下水保全活動を担う人材として登録されている「地下水の守り人」を新たに養成するとともに、既登録者に対する技術講習などで活動を支援し、地域に根ざした地下水保全の取組みを一層推進する。

## 【目標】

- ①実施年度の目標 「地下水の守り人」登録者数 190人  
 ②最終年度の目標 「地下水の守り人」登録者数 300人以上

## 2. 概要

地下水の守り人として活動していただける方を募集し、節水のための消雪設備の維持管理、名水の保全活動などについて基礎的な知識の習得するための養成講座を開催するとともに、地下水の守り人の活動支援のため、ウェブサイト等を通じた情報提供や資機材・書籍の貸出し等を行う。

## 3. 根拠法令等

なし

## 4. 実施内容等

- (1) 地下水の守り人の養成・登録  
 ○ 養成講座の開催  
 地下水の守り人として活動していただける方を募集し、節水のための消雪設備の維持管理、名水の保全活動などについて基礎的な知識の習得するための養成講座（オンライン開催1回）を受講していただいた。  
 対象：名水保全活動団体のリーダー、町内会設置の消雪設備管理者等 18名出席
- (2) 守り人の活動支援  
 地下水の守り人の活動支援のため、ウェブサイト等を通じた情報提供や資機材・書籍の貸出し等を行った。  
 => 令和3年度末の地下水の守り人登録者数：154名

## 令和3年度 事業報告書

事業名	生活環境の保全	新規・継続区分	新規
事項名	地下水保全活動実践促進事業	開始年度	令和3年度
担当部署	生活環境文化部環境保全課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

富山県地下水指針（平成30年3月）に基づき、地下水保全の必要性の普及啓発及び冬期の降雪時に地下水の大きな低下が見られた際の地下水利用の節水を呼びかける。

## 【目標】

- ①実施年度の目標 地下水保全の必要性に係る県民への周知 750人以上  
②最終年度の目標 地下水保全の必要性に係る県民への周知 5,250人以上

## 2. 概要

富山県地下水指針（平成30年3月）に基づき、地下水保全の必要性を普及啓発するために、県民向けのリーフレットを作成して配布する。また、冬期の降雪時に消雪設備の一斉稼働などで地下水の大きな低下が見られた際には、地下水を利用する町内会や事業者にはFAX等にて地下水環境に関する情報提供を行い、節水を呼びかける。

## 3. 根拠法令等

富山県地下水指針

## 4. 実施内容等

- (1) 地下水保全リーフレットの作成・配布  
県民向けのリーフレットの作成・配布…1,000部
- (2) 冬期間の地下水位低下時の節水への協力呼びかけ  
冬期の地下水位低下時の節水への協力呼びかけ(FAX)…冬期間前のお知らせ 1回

## 令和3年度 事業報告書

事業名	自然環境の保全	新規・継続区分	継続
事項名	ナチュラリスト活動事業	開始年度	昭和49年度
担当部署	生活環境文化部自然保護課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

<b>【目的】</b>	
自然公園等を訪れる利用者に自然への理解と愛情を深めてもらい、自然保護の重要性を認識してもらうため、富山県自然解説員（ナチュラリスト）の養成・配置を行う。	
<b>【目標】</b>	
①実施年度の目標	新規ジュニアナチュラリストの養成 40名
②最終年度の目標	新規ナチュラリスト及びジュニアナチュラリストの認定者数（累計） 300名

## 2. 概要

富山県の自然について解説することのできるナチュラリスト、ジュニアナチュラリストを定期的に養成するとともに、自然公園等にナチュラリストを配置し、地域住民等の公園利用者に自然保護意識の普及・啓発を行う。

## 3. 根拠法令等

なし

## 4. 実施内容等

<p>1 ナチュラリスト活動業務 4月下旬～11月上旬にかけて、立山を始めとした自然公園等に配置し、利用者へ自然保護意識の普及・啓発を行う。 (8月16日～9月28日は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止となった)</p> <p>2 ジュニアナチュラリスト養成 自然保護思想の普及啓発を目的に、富山県自然保護講座（ジュニアナチュラリスト養成講座）を開催し、ジュニアナチュラリストの計画的養成を図る。 (令和3年度認定者数：107名)</p> <p>3 黒部峡谷ナチュラリスト活動事業費補助 自然保護意識の普及を目的とし、樺平ビジターセンターの来館者等へ自然解説活動を実施するための解説員の配置に係る費用の補助を行う。 (8月18日～9月28日は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止となった)</p>
---



## 令和3年度 事業報告書

事業名	自然環境の保全	新規・継続区分	継続
事項名	ライチョウ王国とやま発信事業	開始年度	平成30年度
担当部署	生活環境文化部自然保護課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

## 【目的】

ライチョウ保護活動や保護の重要性の発信を県民と協働で行う。

## 【目標】

- ①実施年度の目標 とやまのライチョウサポート隊員数 100人  
 ②最終年度の目標 ライチョウ保護柵設置の認知度 向上（H27県政モニターアンケート26.6%）

## 2. 概要

- ・ライチョウは国の特別天然記念物であり、本県の県鳥でもある。
- ・ライチョウの生息数はS50年代は3,000羽と推定されたものがH20年代には2,000羽に減少し、環境省のレッドリストでは絶滅危惧IB類とされている。
- ・本県はライチョウの国内最大の生息地であり、高い頻度でライチョウと出会うことができる「ライチョウ王国」である。
- ・本県のライチョウは生息数調査を開始したS40年代から現在まで安定的に生息している。
- ・県民と協働でライチョウ保護活動などを行うとともに、ライチョウ保護の重要性を全国に伝える。

## 3. 根拠法令等

なし

## 4. 実施内容等

- R3.6.27 第6次とやまのライチョウサポート隊認定講習会 参加者44名（新規34名、経験者59名認定）  
 R3.12.12 第6次とやまのライチョウサポート隊活動報告会 参加者35名  
 R4.2.7 上野動物園HPにてライチョウ保護活動等を紹介

## 令和3年度 事業報告書

事業名	自然環境の保全	新規・継続区分	新規
事項名	国立公園清掃活動事業	開始年度	昭和49年度
担当部署	生活環境文化部自然保護課	終了年度	令和9年度

## 1. 目的及び目標（値）

<b>【目的】</b> 中部山岳国立公園での自然環境の保全に努め、自然保護・美化思想の普及啓発を図ることを目的とし、富山県側の美化清掃等を行う。
<b>【目標】</b> ①実施年度の目標 清掃活動人数 400名 ②最終年度の目標 清掃活動人員（累計）2800名

## 4. 実施内容等

立山、黒部及び薬師岳・奥黒部地区において、公園利用者がもたらすゴミ及び廃棄物の収集、運搬、処分等の美化清掃事業を実施し、環境保全に努めるとともに、自然保護、美化思想の普及啓発を図った。
《清掃範囲》 ○立山地区 弥陀ヶ原・天狗平・室堂・雷鳥沢・剣沢・剣岳・浄土山・雄山・別山・五色ヶ原・タンボ平・御山谷半島 大日岳 ○黒部地区 鐘釣・樺平・猿飛・名剣・祖母谷・阿曾原・仙人温泉 ○薬師岳 奥黒部地区 折立・太郎平・薬師峠・薬師平・薬師岳・五色ヶ原・薬師沢・高天原・雲の平・三俣蓮華岳 黒部五郎岳